

安楽寺寺報

# 聞光

第81号  
報恩講号  
2016/11/1

発行所  
〒737-0054  
呉市上山田町2-28  
**安楽寺**  
0823-21-7561

### 石に刻む

信楽晃仁

九月二六日が信楽峻庵安楽寺前住職の三回忌でした。九月二四日の三回忌法要には、京都より毛利悠先生にお越しいただき、遠近各地よりお参りをいただき、本堂は満堂でした。あつという間の二年間で、その間に何ができたかといわれると、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。前任職は自分が亡くなったあと、親鸞聖人の本当の教えが残っていかどうかを大変心配しておりました。今もその心配をしているのだろうと思います。それが原動力となり還相回向の菩薩として、形を変えて、様々な活動していることだとも思っています。そこから見たら、何をしているのかと、叱られること間違いなしです。これから頑張らなくてはなりません。

さて、昔から忘れてならない事を「石に刻む」といいました。調べてみますと、よく耳にしたこの言葉の全文は「かけた情は水に流せ、受けた恩は石に刻め」という言葉のようです。長野県の実言宗智山派の前住の石柱にほつてあるそうです。仏典にもその出拠は見つかからないように、誰かの言葉を石に彫ったと考えられます。もし他にご存じの方がいらっしゃるいましたら教えてください。しかしこの言葉本堂に石に刻まなければならぬ大切な言葉です。私たちがたとえば、かけた情は石に刻み、後生大事に持ち続け、受けた恩は簡単に水に流してしまえます。いや、水に流しても気づけばいい方で、受けた恩に気づいていないという気がしてきます。報恩講はその恩に気づかせて頂く縁であり、そのご恩を深く心に刻む法要です。

さて、石に刻むと言えば、一番に頭に浮かぶのがお墓です。先人のご恩を思い、先祖からかけられている願いを思い出すのがお墓です。前任職の葬儀以降、前任職のお墓に参りたいと言われ、問われる事が数回ありました。どこに参ればいいのかと尋ねられ、東広島市の豊栄の教円寺にお墓がありますと答える事が何度かありました。しかし教円寺は随分車で走らなくてはなりません。ちよつとお墓参りに、ということには行かないので、案内はしたものの、果たして行き着けるか、心配をしております。そんなことから今回、一度前任職の納骨の場所を皆様にお知らせしておきます。

### 一枚の写真

大谷本廟へ参りしてきました。前任職の墓と梯實圓上のお墓にも参りしてきました。浄土真宗の二大学派といわれる、空華学派を代表される梯先生と、石泉学派を1人で引っばってきた前任職が、同じ年にお浄土に帰り、お浄土では娑婆での思いを話していただこう。梯先生のお墓は新勧学谷という所に安置されています。この写真の真ん中奥正面の一基です。回りには歴代の勧学さんのお墓があり、安芸の勧学さんのお墓もたくさんあります。前任職は少し離れたところに安楽寺の墓を建ててくれました。少し時間あれば、のんびりと墓地散策も乙なものですよ。(K)



### 脳トレ 同じもの探し

あ〜くの内弁当で、見本と全く同じものを見つけて探し出してください。



### 蓮托生の公教誨

「一蓮托生」(いちれんたくしょう)  
テレビなどでよく悪者が追い込まれ、自分だけが捕らえられそうになると、仲間や回りの者に「こうなりや一蓮托生だ」と語る場面があります。運命を共にする覚悟を促すのでしようが、これは本来悪者が使う言葉ではありません。蓮はお浄土をあらわす花です。仏様が皆蓮の花の

台座の上にお立ちになっておられるように、死後お浄土の蓮の花の上に生まれることを指して「蓮托生」といいます。この世ではどれほど縁が深かろうが、どれほど愛し合っつていようがどうしても別れてはなりません。そうしたら別れを自覚した人達も、またお浄土で会いましょうと、この言葉を使ったことなんです。呉には一蓮托生と書いたお墓もあります。



#### 伝灯奉告法要団体参拝ご案内

先般本願寺では、即如ご門主から、専如ご門主への代替わりがありました。その伝灯奉告法要が今年秋より来年の春までお勤めされます。全国からたくさんの方々が参り下さいます。是非安芸南組からも参りしようと言うことで、下記の通り計画いたしました。ご都合がつくようでしたら是非一緒にお参りしたいと思います。詳細は安楽寺にご置いてありますので、必要な方はご連絡下さい。

日時 平成29年4月12日(水)~14日(金)  
行程 呉→京都本願寺→四国(鳴門) 全行程バス  
旅費 63,000円  
ℓ切 平成29年2月12日(日)

### オレオレ詐欺にご注意!!

先日「減らそう犯罪呉フェスタ」にひかり幼稚園の年長さんが参加し、新呉市役所の絆ホールで歌や鼓笛隊、リボンを披露しました。そしておじいちゃんおばあちゃん達へ、「悪い人にだまされないように!」というメッセージを送りました。

昨年のオレオレ詐欺の被害額は、広島県で14億円。呉市だけでも1億3千万円がだまし取られているそうです。これは届け出のあったものだけです。実際にはもっと多くの方がだまされているものと思われます。この呉で大変な額です。それぞれ色々対策を考えておられると思いますが、「私は大丈夫」と言っている人が一番危ないそうです。詐欺集団はプロです。二重三重の罠を仕掛けてきて、到底シロトでは太刀打ちできないそうです。還付金詐欺もありますし、とにかく一度電話切って、誰かにご相談しましょう。



#### 編集後記

今回は脳トレを入れましたが、時々認知症予防や、健康情報も入れたりしたいと思います。お参りに行って話したいものや、物忘れが多く、認知症が心配だというお話をよく聞きます。人ごとではなく私も心配な日々です。なればなつたで仕舞い始めては、足元を始めていると思いはず。今回はお電話でお休ませていただきます。今仕事に切り替えています。(K)

# お念仏のしずく

## 「まことの間法とは」その2

真宗の教えを学ぶ人の中に、よく「仏法を聞いても、みんなすぐに忘れてしまう」という人があります。仏法を聞くとは、もとより聞いたことを記憶して忘れないようにすることではありませんが、聞いても聞いてもすぐ忘れてしまうとは、聞き方があやまっていないと、聞き方があやまっていないと、言わねばなりません。仏法を聞くとは、帰するところは、この私が虚妄不実の人生を生きていて、一刻一刻と地獄に落ちてゆく道を歩んでいること、そしてまた、そういう愚かな私のために、声をかぎりに喚びたもうている、如来の大悲の心をこそ聞くこととあります。私が地獄に落ちてゆくことと、そういう私にかけられた大悲の心を聞いて、すぐに忘れてしまうとは、いったいどういうことでしょうか。そのことを、いくら聞いてもすぐに忘れてしまうとは、それでもなお仏法を聞いたと言えるのでしょうか。もしもそのことを本当に聞いたならば、たとえ一度聞いただ

けでも、決して忘れられなくなるはずでありましょう。この私の間法は、地獄に落ちていく、そしてその故にこそ、如来が片時も休むことなく、この私を喚び続けて下さるという、そのことが、私の心の底にあつくあつく焼きついて忘れられなくなるということこそ、まさしく聞いたと言ふことでありましょう。親鸞聖人が心深く、「聞思」せよと語られるのは、まさしくこのように、心の底に焼きついて、忘れられなくなつてくることをあらわすものであります。

『この道をゆく』



### 伝灯奉告法季懇志進納者名 懇志合計額 ¥1,403,000.-

多くの皆様からの上記のご協力をいただきました。お陰をもちまして無事本願寺の依頼額を全額納める事ができます。ご協力ありがとうございました。

- 相繁淳子、安久アサノ、池田浩一、石井久雄、石井裕彦、糸谷輝夫、井上保子、井原章、今村和子、入澤和子、上田憲司、宇佐川義宣、畦弘子、浦島洋子、浦田武夫、恵木かよ、大角マサエ、大下光子、大谷宣孝、大林俊子、大前正清、大室良樹、小笠原慶充、小笠原康雄、岡田貴隆、岡本桂、岡本静枝、沖山慶子、尾崎幹夫、小田豊、片山香代子、門井亮二、金谷巖、釜友ハルコ、加門正光、川西稔、河端国夫、河本英子、上林忍、岸本恵子、北尾正人、木村雪雄、沓木孝子、小浦建一、小谷桂司、後藤清香、後藤由江、小林初栄、作本義正、埜田和生、佐中敬一、沢田美代子、柴崎和幸、澁川光子、白井月星、新河秀子、新谷純子、鈴木英一、曾根勝久、空井哲子、竹井万喜枝、竹中美代子、竹中三郎、武信早苗、多田美枝子、立石盛揮、田中修治、玉木敏彦、玉木量子、土持弘美、寺西美恵、寺本清子、富田和代、富田寛和、中川賢治、中川静義、中川孝、中田希敏、中原八重子、中宗正彦、中宗泰則、中村淳夫、中村禎之、中村守男、中村有、中谷宏邦、新林ヒサヨ、西尾弘子、西田千代子、西村一己、西村義晴、西森正、二宮巖、野崎博志、橋本穰、八田光子、浜本洋身、檜垣圭子、平川康男、廣一志、広林敏夫、藤井友紀、藤崎ハル子、藤本満利枝、藤原幸子、古川幸生、益縣忠孝、益縣綱順子、増田朝美、松浦美智彦、水野伸生、三谷忠義、宮原嘉枝、森眞智子、森原恒子、森本肇、門田俊子、八百城昇、八島弘子、安原和彦、山内信子、山口まゆみ、山下美恵子、山田誠、山根直行、山本一朗、山本夏恵、吉田カズ子、渡辺治康、渡辺美智子、渡引康弘 (50音順)

### 安楽寺法要案内

二月	成道会	日時 12月10日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 北九州 浄圓寺 龍谷短期大学非常勤講師 金山玄樹先生 講題 人間のうち ~私一人で聞くべきこと~
一月	御正忌	日時 1月14日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 住職自動
二月	涅槃会	日時 2月12日(日) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 呉・西岸寺 長岡正信先生
三月	彼岸会	日時 3月11日(土) 朝席10:00~ 昼席13:00~ 講師 府中 龍仙寺 武田一真先生

※来年の法座予定をお知らせします。講題につきましては現在お尋ねしているところです。年末にお届けします年間法要カレンダーでご確認ください。



③ 呉安楽寺墓地の合同墓。②と同じ

② 呉の安楽寺の墓地。  
安楽寺から少し山に上がったところの安楽寺の墓地にあります。



① 東広島市豊栄町安宿の教円寺。前任職の生まれた寺の庫裡の横に龍谷大学の鍋島直樹先生の字です。

⑤ 京都大谷本廟の明著堂。  
⑥ 京都大谷本廟の無量寿堂納骨堂。  
⑦ 京都大谷本廟の安楽寺の墓。  
今回はそのご案内をさせていただきます。もしお近くにお寄りの際は是非お参り下さい。



⑦ 京都大谷本廟の安楽寺の墓。第十一区二七七号地



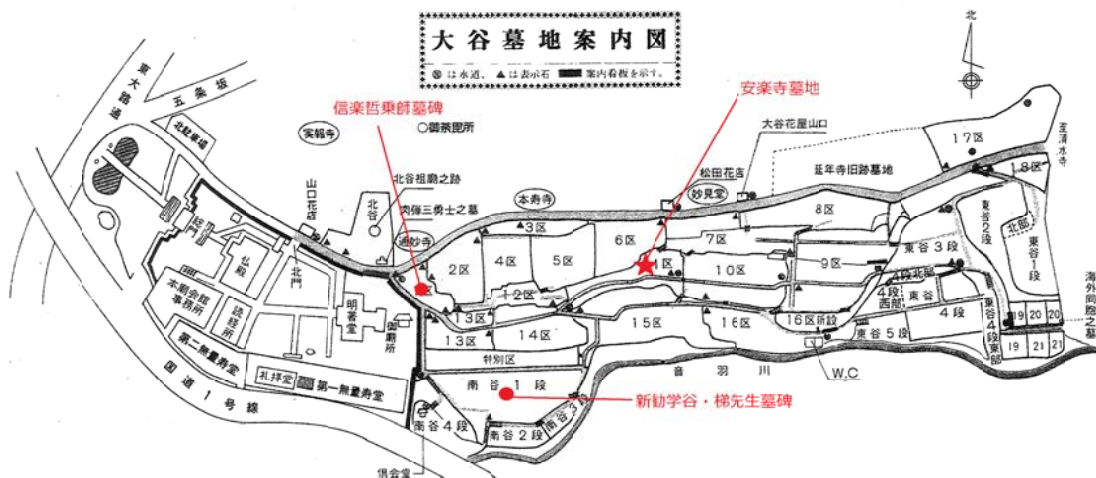
④ 呉安楽寺本堂地下頭真廟納骨堂  
⑤ 京都大谷本廟の明著堂。親鸞さまのお墓と一緒にいられてもらっています。←



⑥ 京都大谷本廟の無量寿堂納骨堂。三階うー六九号←



大谷本廟に安楽寺の墓を前任職が建ててくれています。その墓の裏には前任職自筆の『法事讃』(善導大師)の御文が刻まれています。帰去来他郷不可停 従仏帰本家還本國 一切行願自然成  
と。これは「帰去来(いざいなん)他郷には停まるべからず。仏に従ひて本家に帰せよ。本国に還りぬれば、一切の行願、自然に成ず」と読みます。まさに前任職が語っているようです。「他郷」とは『定善義』(善導大師)には、同じ言葉でそこを「魔郷」と書かれています。残された私たちに、他郷であり魔郷である、迷いの娑婆ではなく本家に帰ることを勧めて下さる言葉です。ついでに本家と勘違いして帰ることを忘れて生きる私たちは、お念仏申しつつ、私には帰る場所があることを、事あるごとに思いおこし、家路につきたいと思えます。大谷本廟にはその他、新勸学谷に行く手前、前任職の曾祖父であり、当



時大谷光瑞師の養育係を務めた信楽哲乗師の墓もあります。大谷墓地の地図を掲載しております。参考にしてください。